



# 全日畜だより

[こちら編集部] (03)-3583-8034

東京都港区麻布台2-2-1麻布台ビル

発効日 2018年6月20日

発行NO 2018 - 11号

## 10周年の節目を迎え 第10回定時社員総会と 「記念セミナー」を開催

全日畜は、6月14日(木)、東京都港区のホテルアジュール竹芝で第10回定時社員総会を開催し、全国から出席された全日畜社員や大勢の関係者が見守る中で、平成29年度の事業報告・収支決算、平成30年度予算・事業計画などを原案どおり可決承認しました。

金子理事長は、「全日畜は10周年という節目の年を迎えることができた。これもひとえに会員の皆様のお蔭であり、これからも新たな10年に向けてスタートし、更なる発展を目指したい。」と挨拶しました(写真、上)。

改革に努めた平成29年度の活動報告では、別途小冊子「スナップ写真集」を作成して、1年間の活動を見える化して丁寧に報告しました。

任期途中で辞職する理事1名の補欠選任では、工業会参事の安井 護 氏が満場一致で新理事に選任されました。(写真、右)。

## 第10回 定時社員総会



## 総会記念の「全日畜セミナー」

(演題) 努力すれば報われる「畜産」

大勢の方々に参加いただいた今回の「全日畜セミナー」。全日畜では10周年を祝して、「畜産」の第一人者である公益社団法人畜産技術協会会長の南波利昭さんに講師をお願いし、厳しい環境におかれている畜産経営者が少しでも元気になるようなお話をとお願いし、いただいた今回の演題。

「まあまあの時こそ技術がおろそかになりがち。TPPイレブンによるオープン市場でマイナスをプラスにしていくためにも技術の重要性を再認識することが大事。」との前置きに続いて6点のサブテーマによる講演がスタートしました。

難しい時代の畜産業についての解説も、講師の豊富な知見と優しい語りかけで納得。講演後は、堰を切ったように質問ラッシュ。

例えば、Q:酪農経営者は生乳が集乳・合乳される下で乳量上げるべきか乳脂肪をあげるべきか。Q:HACCP、ISO、JAS、JGAP等どんどん認証が追加され牛肉パックはシールだらけ、肝心の肉が見えない状況に陥っている。Q:オリンピックに向けて認証取得が進められているが、中小規模の経営体では90以上のチェック項目を満足させるのは至難のこと。Q:日本では一般的なストールでの飼養が、EUのアニマルウェルフェア基準で撥ねられると厳しい、等々。

女性の参加も多くみられた会場では予定時間を超えて質疑応答が続きました。[全日畜セミナーのレポートはHP資料室に掲載されます。]



(写真上、講演中の南波講師 写真下、会場からの質問者)



(文中での団体の略称標記について)

- ・一般社団法人 全日本畜産経営者協会 (全日畜)
- ・一般社団法人 全日本配合飼料価格畜産安定基金 (全日基)
- ・協同組合 日本飼料工業会 (工業会)
- ・一般社団法人 都道府県配合飼料価格安定基金協会 (〇〇県基金協会)

## 北海道全日畜が第8回定時会員総会を開催

北海道全日畜は、6月7日(木)札幌市のセンチュリーロイヤルホテルで第8回定時会員総会を開催し、提案した平成29年度事業・決算報告、平成30年度予算・事業計画等は全て原案通り可決承認されました。

今回は、体制強化の観点から、北海道全日畜組織と全日畜組織の役員改選時期を同時期にするための定款変更を提案し可決され、今期も現行の佐々木会長をリーダーとした役員体制の継続が決定しました。来年度は、北海道全日畜、全日畜ともに役員改選期を迎えることとなります。

会員総会では、昨年の全日畜の会費見直し議論が賛助会員の減少等として影響を及ぼしており、今後の全日畜活動の活性化や見える化を期待するとの意見等が多く聞かれました。

(写真上 審議が続く総会会場の様子から)

(写真下 併催された北海道基金協会の皆さんと、

左から、北海道全日畜高橋事務局長、全日基引地常務、北海道全日畜佐々木会長、北海道基金協会佐渡谷理事長)



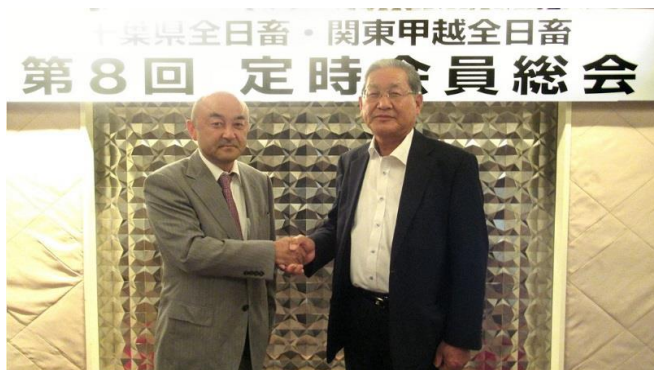
## 関東甲越全日畜、千葉県全日畜が第8回定時会員総会を開催

関東甲越全日畜と千葉県全日畜は、6月14日(木)、第8回定時会員総会を都内港区のホテルアジュール竹芝で開催しました。総会では、提案された平成29年度事業・決算報告、平成30年度予算・事業計画を全て原案通り可決承認しました。また、役員改選期を迎えたことから理事の選任も実施されました。

役員改選では、長く関東甲越全日畜と千葉県全日畜をけん引していただいた伊藤会長が勇退して、長嶋透新会長にバトンタッチすることとなりました。総会会場では、難しいかじ取りを担っていただいた伊藤会長に対して感謝の拍手が送られました。



(写真左 総会会場の様子から)

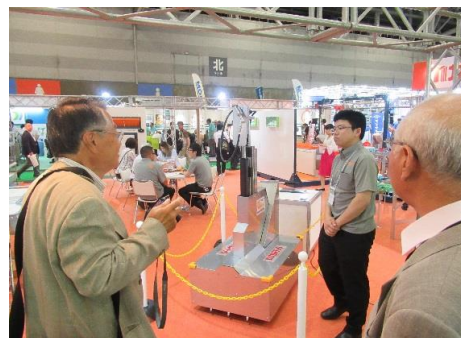


(写真右 長嶋新会長と伊藤前会長の固い握手)

## JRA事業は「資料収集調査」からスタート

全日畜の「スマート畜産調査普及事業(JRA事業)」は資料収集調査から本格始動しました。5月30日から名古屋市国際展示場で開催された「国際養鶏養豚総合展 2018」に調査団を派遣し、施設・機器メーカーの展示ブースでの聞き取り調査を実施しました。

各メーカーとも「スマート畜産」に高い関心を示し、今後実施を予定しているメーカーを対象としたアンケート調査について貴重な意見等をいただきました。また、今後開催予定の「全日畜シンポジウム」への参加を希望するメーカーも複数ありました。



(文中での団体の略称標記について)

- ・一般社団法人 全日本畜産経営者協会 (全日畜)
- ・一般社団法人 全日本配合飼料価格畜産安定基金 (全日基)
- ・協同組合 日本飼料工業会 (工業会)
- ・一般社団法人 都道府県配合飼料価格安定基金協会 (〇〇県基金協会)